

＜ もくじ ＞	
1. 本年度連続講座第3回、第4回の概要と受付のお知らせ	1
2. 研究会合同シンポジウム「あれから5年～私たちはフクシマを忘れない～」のお知らせ	2
3. 研究会からのお知らせ	2～3
4. 2015年第14回大会での発言者を公募します	3
5. 研究会の報告	4～5

1. 本年度連続講座『人生100年時代 ～明るく、元気に、健やかに～』 第3回、第4回の概要と受付のお知らせ

第3回講座の概要をお知らせいたします。お申し込みをお待ちしております。

◆第3回講座は、2014年11月29日(土)開催です。◆

講演テーマ：「NNKからPPKへ」

講師：星 旦二（首都大学東京・都市システム科学域・教授、当学会会員）

（講演要旨）

健康長寿とは、要介護状況にならずに天寿を全うすることである。健康長寿のためには、早世を予防することが前提ですが、この早世予防と健康長寿を維持していくことを我が国の目標としたのが、健康日本21である。

早世予防と、健康長寿をめざすことは高齢者にとっては、PPK（ピンピンコロリ）として知られている。一方、長寿であっても要介護状態のままに最期を迎えることを、NNK（ネンネンコロリ）とよんでいる。我が国は、特に女性は最高長寿国ですが、要介護割合が多くNNK長寿国であり、健康長寿の実現が大きな課題である。今回は、PPKの方策について話題提供したい。

※全6回については既にお送りしましたチラシかホームページをご参照ください。

1) 場 所：東京銀座・資生堂 9Fホール

2) 開催要領：各回とも、14時～16時の開催。募集人数は最大45名。
各回の参加費は、会員2500円、非会員3000円。

※お申し込みは、①氏名、②参加の講座、③連絡先を明記し、eメール、FAXで事務局まで。

※各回参加費は、当日、会場にてお支払いください。

※今後とも各回ごとにJAAS Newsなどで随時お知らせいたしますが、ご家族やご友人などにもお声掛けをお願いいたします。多数の方のご参加をお待ちしております。（事務局担当 鈴木）

なお、12月20日は、第4回の開催となりますので、併せてご案内いたします。

◆第4回講座は、2014年12月20日(土)開催です。◆

講演テーマ：「ICTで社会につながる」

講師：森 やす子（株）情報環境デザイン研究所 主席研究員、当学会理事）

（講演要旨）

スマートデバイス（スマートフォンやタブレット端末など）の普及はめざましく、スマートフォンの個人普及率も50%を超えています。

スマートデバイスを使って、生活情報を自分好みに集めて利用する。リアルとネットで賢くお買い物をする。ウェアラブル端末でバイタルデータを管理する。センサー利用やスマートハウス等々、スマートデバイスを利用して私たちの生活はどのように変わっていくのでしょうか？シニア世代では、社会とのつながり方はどのように変わっていくのでしょうか？

日常生活をイキイキと過ごせるようなサービス、通信費が嵩まない工夫など、お話できればと思います。

(注) 今回のみ、会場が1階下の8F 会議室になります。申込要領は上記第3回と同様です。

2. 研究会合同シンポジウム

「あれから5年～私たちはフクシマを忘れない～」のお知らせ

シニア社会学会には現在5つの研究会があり、それぞれ活発に活動を続けております。しかしそれぞれの活動が相互に交流を深め、有機的に連携していくためにも、年1回の学会大会とは別に、学会員および一般の方々とともに議論しあえる機会を増やしていくことの必要性があるという意見が出され、学会運営委員会で早急に具体化しようということになりました。そこで、最初の試みとして、「災害と地域社会」研究会が中心となってシンポジウムを企画することになりました。未定の部分もありますが、早めに皆様にお知らせし、準備を進めていきたいと思っております。以下、現段階での内容をお知らせし、会員を問わずできるだけ多くの方のご参加をお願いしたいと思います。

- 1) 日 時：2015年3月14日(土) 13:30～16:00
- 2) 場 所：日本労働者協同組合連合会事務所会議室(池袋西口)
- 3) タイトル：あれから5年～私たちはフクシマを忘れない～(仮)
- 4) 報告者・コメンテーター：坂田正顕(当学会会員、早稲田大学名誉教授)、白木里恵子(早稲田大学理工学部助手)、伊藤まり(福島県浪江町)、皆川鞆一(本学会運営委員)ほか。
- 5) 内 容：居住地を奪われた人びととそれらの人びとを受け入れる社会をめぐる諸問題を通して、原発災害の特異性を明らかにするとともに、この問題が被災地社会の問題にとどまらない全国的な問題であるという認識をできる限り多くの人と共有したい。

3. 研究会からのお知らせ

(1) 第19回「災害と地域社会」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2014年11月26日(水) 18:30～20:30
 - 2) 場 所：早稲田大学戸山キャンパス 戸山キャンパス 39号館 第7会議室
 - 3) 報告者：小林秀行氏(東京大学大学院学際情報学府 博士課程)
 - 4) タイトル：「住民全体の復興を支える緊急コミュニティ組織の役割と機能—仙台市南蒲生地区を事例として—その2」(仮)
 - 5) 参加費：500円(学生は無料、ただし社会人入学者を除く)
- ※お問い合わせ、参加申込は事務局・福原(fukuhara@jaas.jp)迄お寄せ下さい。

(2) 第82回 社会保障研究会 開催のお知らせ

- 1) 日 時：2014年12月18日(木) 18:00～20:00
 - 2) 報告者：奥村隆一氏(三菱総合研究所 主任研究員)
 - 3) テーマ：「高齢者の地域居住」
 - 4) 会 場：**高齢者生活協同組合 会議室(会場が変わりましたので、ご注意ください)**
豊島区東池袋1-44-3 池袋ISPタマビル 7・8階 会議室は8階になります。
- ※池袋駅東口北徒歩6分(パルク側口を出て、線路に沿って進む)
※ご質問がございましたら、佐藤まで。090-4436-6853 fujiko-s@jeans.ocn.ne.jp

(3) 第8回「ガバンス」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2014年12月18日(木) 16:00~20:00
- 2) 場 所：地域サロン「ぷらっと」(JR武蔵境駅北口徒歩5分)
- 3) 報告者：フリートーカー
- 4) タイトル：「忘年会を兼ねてフリートーカー」
- 5) 参加費：1000円(一品持ち寄り)

※お問い合わせ、参加申込は川村(kawamura0515@ybb.ne.jp)迄お寄せ下さい。
地域サロン「ぷらっと」のイベントのお問い合わせ・お申し込みもこちらで受けます。

(4) 第15回「シニア社会のリテラシー」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2014年12月22日(月) 16:00~18:00
- 2) 場 所：早稲田大学国際会議場4階第7共同研究室
- 3) テーマ：濱口座長からの問題提起

<タイトル>：『コミュニティ文学の可能性』

濱口座長は「コミュニティ」はこれからも引き続き大切な問題をはらんでいる言葉であり、このことを分かり易く提示するため「コミュニティ文学の可能性」というタイトルでレクチャーをいただきます。ご期待下さい。

- 4) 参加費：300円

※お問い合わせは、事務局・島村までお願いします。

(5) 第18回「シニアのICT活用研究会」開催のご案内

12月の月曜日に開催の予定で調整を進めています。

開催日、話題提起者が決定次第、シニア社会学会のホームページでご案内いたします。

- 1) 日 時：2014年12月の月曜日 17:00~19:00
- 2) 場 所：(公財)ダイヤ高齢社会研究財団 会議室
新宿区新宿一丁目34番5号直田ビル3階

3) 話題提起者：未定

4) テーマ：未定

5) 参加費：500円

※参加のご連絡およびご質問については、澤岡 sawaoka@dia.or.jp (@は、半角にしてメール送信ください)までご連絡ください。

4. 2015年第14回大会での発言者を公募します

2015年6月、一般社団法人シニア社会学会は創立15周年を迎えます。第14回大会において、「エイジフリーを目指して」をテーマに清家篤副会長が基調講演をされます。 ついては、会員から年齢にかかわらず活動している事例を紹介して頂く方を公募いたします。テーマは「就労」・「生涯学習」・「ボランティア」等、発言時間は10分です。

公募要項：発言内容をA4用紙1枚に纏め、2015年1月末までにシニア社会学会事務局宛提出ください。メール添付でお送り頂いて結構です。

5. 研究会の報告

(1) 第17回「災害と地域社会」研究会の報告

- 1) 日 時：2014年9月26日（金）18:30～21:00
- 2) 場 所：早稲田大学戸山キャンパス39号館5階第6会議室
- 3) 報告者：松村 治氏（早稲田大学総合人文科学研究センター、招聘研究員）
- 4) タイトル：「福島からの避難者の心と支援」

《報告概要》

- ふくしま心のケアセンター活動記録誌には、「集団生活に参加する人、しない人に二極化、その固定化が進んでいる。集団生活に参加しない、相談に来ない、相談する気力も湧かない人にとって、より相談しやすい環境作りを常に考え、試行錯誤して取り組んでいく」というような記事がある。検診等の機会を通じ、問題のありそうな人に臨床心理士などを派遣してフォローするアウトリーチでの対応があり、それを支援としている。
- アウトリーチでケアすることは、病気モデルで考えることであるが、避難者をケアする場合には健康モデルで考える必要がある。
- 悲嘆のプロセスと、生きがいの喪失が合わさり、抑うつ的な気分が続いている。結果として、人と関わることを避けて内にこもる傾向に陥っている。これが、特徴である。
- ひきこもりについて支援者にインタビューすると、個人の特性だという回答をした人が多かった。ひきこもりは疾患とまではいえず、一つのカテゴリーと考えるべきである。
- 生きがいの喪失について、若い人と高齢者とは感覚が異なる。離れてきた元の場所に対し、自主避難、母子避難の方からあまり強い愛着を感じないが、高齢者のそれは強い。双葉町での話では、高齢者が非常に健康に気を遣うという。その理由は、「ここで死にたくない」からだという。「元の場所に戻って死にたい」から健康に気を遣うという話を聞いて胸が痛むが、高齢者はこれほど故郷への愛着が強いといえる。
- 多様な避難者を「冰山モデル」と名付けて分類した。水面上に出ているのがAである。A：地域で催されるイベントや定期的に関わっているサロンへの参加あり。支援者が接触可能でコミュニケーションがとれる。B：ひきこもり傾向のために接触ができず生活や心の状態の把握できない（臨床心理的な介入が必要なわけではない）。C：ひきこもり傾向のため接触ができない。さらに臨床心理的、医療的な介入も必要な状態である。ウェルビーイング（身体、心理、社会的な面を合わせた健康）のレベルはCが最も低く、CからAへと高くなっている。
- 支援者でこの冰山モデル全体を見ている人は少ない。Aをケアの対象とみている人、Cのみをケアの対象と考えている人が多い。
- 避難者は自らがライフスタイルを変えて、低下したウェルビーイングを高めることが必要で、支援としては、避難者にどのようにライフスタイルを変えればよいかについての知識を提供し、避難者のC、B → Aへの上昇を援助することである。
- 冰山モデルC、BをAに引き上げ、Aに該当する避難者が参加するイベント、サロンを継続することが重要である。山形県鶴岡市では、このようなケアができるのではないかと期待している。市から支援者に対するモデル説明を求められており、進展が期待できる。

《質疑応答》

- 避難者であることを明かさず、ひきこもりになっている人への対応はかようにすべきか。→ 避難者に考え方を覚えてもらう必要がある。閉鎖的だと思われる場所に7年ほど住んだ経験があるが、「自分はよそ者だ」という意識を捨てた途端に友人ができた。避難者が「自分は避難者だ」という意識を変えれば地域の人と親しくなれる。いわき市のような厳しい状況はあるが、山形のような場所ではむしろ避難者だと分かった方が、優しく接してくれることが多い。抑うつ状態になるとネガティブに受け止めるようになるので、考えを変えてもらう必要があると思う。

(以降の項目は省略)

(福原秀一 記)

(2) 第13回「シニア社会のリテラシー」研究会の報告

1) 日 時：2014年10月27日(月) 16:30~19:35

2) 場 所：早稲田大学国際会議場4階第7共同研究室

3) テーマ：濱口座長による総括講義

—「コミュニティとは何かと問いかけることの現代的意義 (パートⅡ)」

- 当研究会はこれまで12回に亘って「コミュニティとは何か」を議論して来ましたが、濱口座長はコミュニティの現代的意義というテーマで総括された。特に「ところ定まれば、こころ定まる」ということは、重要な問題を含んでおり、コミュニティのエッセンス、実態を上手く表現していると思う。と述べられた。(島村記)

一般社団法人シニア社会学会・事務局(月・水・金オープン)

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-15-5 パールビル4階

電話&FAX：(03) 5778-4728

eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp URL：<http://www.jaas.jp/>